

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 9 月 11 日現在

機関番号：32685

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25370237

研究課題名(和文) 孝子伝をめぐる幕府と地方 『官刻孝義録』と藩政資料を比較して

研究課題名(英文) Local and Central Government from the Point of View of Filial Piety

研究代表者

勝又 基 (Katsumata, Motoi)

明星大学・人文学部・教授

研究者番号：00409533

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の4年間で得た成果は下記4点である。1：著書『孝子を訪ねる旅』2：論文「近世孝子伝解題(一)」、3：論文「近世孝子伝解題(二) 熊本藩」、4：著書『親孝行の江戸文化』。  
この通り、本課題で十分な成果を挙げた。また資料的にも、今後科研費の援助を得ずとも研究を遂行できる見通しが立った。また、各藩の孝子伝の調査を通じて、江戸における写本文化という、より大きな問題が浮かび上がった。そこへ、UCバークレーから調査を依頼されるという稀有なチャンスを得て、科研B(海外学術)の支援も得ることができた。これを逃さず、「写本文化の近世」の研究テーマを世に問うて人文科学に貢献したい。

研究成果の概要(英文)：This project resulted in two books and two papers. In addition, I collected various data during the four year research period. I believe this will make it possible to continue investigating filial piety culture in the Edo period without help from the KAKEN fund. This research has inspired a broader interest in "The manuscript culture of the Edo period". At the same time, fortunately, I received a formal request to research the 2,800 titles of the Japanese classical manuscripts found in UC Berkeley C. V. Starr East Asian library. I am planning to move on to this new project and, hopefully, play a small role in the development of this study.

研究分野：日本近世文学

キーワード：孝子伝 孝 日本近世文学 表彰

## 1. 研究開始当初の背景

『官刻孝義録』の主要な研究は、菅野則子『江戸時代の孝行者』(1999年)である。この研究は孝子伝の本文内容から為政者の意図を汲み取ろうというものであった。菅野には『官刻孝義録』の翻刻も備わる(1999年)が、その本文がいかんにして成立したかという問題についてはほとんど言及がない。

『官刻孝義録』と地方との関係については、妻鹿淳子『近世の家族と女性』(2008年)が岡山藩を例にとって研究を行った。この研究は有意義なものであるが、他の全ての藩についての検討は手つかずのまま残されている。

申請者の研究人生を通じての目標は、近世から近代にかけての「孝」と文学との関わりを全て調査研究することである。

これまでは幕初から元禄期までの孝子伝を調査して来た。これに対して、18世紀、すなわち元禄期から『官刻孝義録』が刊行される寛政期までについては、まだ手が及んでいなかった。

## 2. 研究の目的

『官刻孝義録』以前に各藩ではどのように孝子顕彰を行っていたのだろうか。『官刻孝義録』編纂に際し、地方の孝文学はいかにして幕府へと吸い上げられたのだろうか。またいっぽうで、『官刻孝義録』の編纂が、各藩の孝子顕彰に拍車をかけた事例もあったのではないか。こうした孝をめぐる幕府と地方との双方向の影響関係を、できるだけ具体例に即した形で明らかにする。

従来近世の「孝」はあまり肯定的な評価をされて来なかった。代表的な見方は、孝子の表彰が、褒めることにより封建体制に順応する庶民を作ろうとした政治戦略だ、というものである。申請者はこうした見方によって「孝」が果たした文化的役割が切り捨てられて来たことこそ問題だと考えている。本研究は、「孝」が近世の文化的価値観の底流として十分に意味のあるものだったという新た

な視点を提示したいと考えた。

## 3. 研究の方法

『官刻孝義録』(享和元年 1801 刊。全50巻)は、幕府が各藩に当地の孝子を報告させ、それを幕府で編纂・刊行した一大事業である。近世最大の孝子説話集だと言って間違いない。

しかし該書は各藩からの報告を中心として成っているという性質上、地方文学の集成という一面を持つ。該書の編纂を通じて、「孝子伝における地方と中央」という問題が初めて生まれたと言っても良い。

本研究では、全国の藩政資料を確認し、各藩がどのような孝子顕彰活動を行っていたかを調査した。その上で、そこで得た資料を『官刻孝義録』の人選・文章と比較するという作業を完遂させる。

この作業を通じて、『官刻孝義録』における地方と中央との交流について、具体的に跡づけようとするものである。

しかし「5 主な発表論文等」に述べた通り、本研究は、途中でより効率的な方法を発見して、方向転換した。近世中期に孝子をたずねて日本全国を旅した思想家、高山彦九郎の旅日記を検討の中心へと据えることにしたのである。これによって、より効率的に、そして計画当初の地方・中央という二つの視点に加えて、「旅人」という、もう一つの視点を加えることに成功した。

## 4. 研究成果

地方と中央の関係を明らかにするために、まず地方における孝子伝のありかたを正確に明らかにしなければならないと考え、紀要に連載をはじめた。**雑誌論文「近世孝子伝解題(一)」**は、近世に書かれた孝子伝について、諸本や孝子の素性等の解説を施す連載の第1回である。今回は土佐藩前期～中期の孝子伝を取り上げた。とくに『土佐国鏡草』

については、従来研究の不備を大きく訂正した。またここで、写本の孝子伝が持つ重要性に気づかされたのは、のちの科研課題につながる気づきであった。

続けて、**雑誌論文「近世孝子伝解題(二)熊本藩」**は、熊本藩の孝子伝を取り上げた。とくに『肥後孝子記事』の完本など、書名のみ知られており所在が明らかでなかった資料の存在を明らかにした。

**図書「孝子を訪ねる旅 江戸期社会を支えた人々」**は、本研究において途中から取り入れた方法、高山彦九郎日記を中心とした比較調査、による成果である。

本書では、各地を旅した勤皇の思想家・高山彦九郎の日記のなかから、孝子良民を訪問した記事に着目し、独自に発見した新資料を加えて、江戸期社会を支えた庶民の道德・思想を明らかにしようとした。

彦九郎は、江戸時代中期の勤皇思想家としてよく知られているが、その旅の目的には、孝行者を訪ね、その文章(孝子伝)を集めて編纂する、というものがあつた。本研究は、従来の彦九郎研究に新たな一面を拓くという意義もある。またこの日記には、孝子良民を実際に訪ねた記録として、江戸時代には希少な存在である。

よって、出願時の、「『官刻孝義録』の記事と各地の孝子伝を比較する」という計画から、「彦九郎日記と、各地の記事(および『官刻孝義録』)を比較する」へと方針転換を行った。

調査の結果、小浜、静岡、小田原、山梨、京都、茨城など、江戸時代中期において孝子良民の表彰が盛んであつた地域を、おおむねカバーすることができた。そして、江戸時代の日本各地において、「孝」が行動、表彰、文学、などさまざまなレベルにおいて、人々を突き動かしているさまを具体的に明らかにした。

たとえば、小浜藩を訪れた安永四年(1775)

は、小浜藩が孝子表彰をたいへん盛んに行つた時期であり、絶好のタイミングであり、かつ後に刊行された『若州料民伝』(1781刊)には記されない記録を有していた。

また甲斐の国では、甲斐国の節婦・栗女について大きな発見があつた。高山彦九郎は、儒学者・三輪執斎が執筆した栗女伝を入手していたが、これは従来郷土史でもしられていないものであり、かつ栗女伝のなかでもっとも早いものであつた。

**図書「親孝行の江戸文化」**は、17世紀を中心として孝の問題について考えたものである。孝道德は、時に戦前の軍国教育と結びつけて考えられたり、また為政者による人民統制の手段と考えられたりと、とにかく堅苦しいイメージが強い。果たして江戸時代から孝はそのようなものであつたのか。本書は江戸時代の孝がもたらした文化的な側面や、人の動き、書物の動き、思想の動きに着目し、江戸時代に孝が持った肯定的な熱気と、そこから生じた多様な現象を明らかにした。

本書の内容は、本科研以前に発表した論文が主である。しかし第3章の1「明代仏教がリードした江戸の孝子伝」および第2章第1節「綱吉による孝行奨励政策の背景」は、本科研時代の執筆に基づくものである。これによって江戸時代前期(17世紀)の様相が明確になり、前期から中期(18世紀)へのつながりが一層明確になったと考えている。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

勝又基, 近世孝子伝解題(一), 単著, 平成26年3月, 明星大学研究紀要 人文学部・日本文化学科(22), 287-307頁, 明星大学日野校

勝又基, 近世孝子伝解題(二)熊本藩, 単著, 平成28年3月, 明星大学研究紀要人文

学部・日本文化学科(24), 37-66 頁, 明星大学日野校

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 2 件)

勝又基, 孝子を訪ねる旅 江戸期社会を支えた人々, 単著, 平成 27 年 3 月, 三弥井書店, 全 247 頁

勝又基, 親孝行の江戸文化, 単著, 平成 29 年 2 月, 笠間書院, 全 410 頁

〔産業財産権〕

なし

〔その他〕

ホームページ等  
なし

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

勝又 基 (明星大学 教授)

研究者番号 : 00409533

##### (2) 研究分担者

なし。

##### (3) 連携研究者

なし。

##### (4) 研究協力者

なし。

以上